

日交研シリーズ A-696

平成 28 年度共同研究プロジェクト

維持更新時代の道路課金と交通管理に関する研究

刊行：2017 年 10 月

維持更新時代の道路課金政策

Road Charging Policies for Suitable Maintenance and Renewal

主査：根本 敏則（敬愛大学教授）

Toshinori NEMOTO

## 要 旨

諸外国で導入されつつある大型車対距離課金には、道路利用量に応じて負担を求めるという利用者（受益者）負担原則の徹底、さらにその他の混雑・環境外部不経済を課金額に反映させ、より外部不経済の少ない路線へ交通を誘導するという交通需要管理の方法としても期待されている。

本研究プロジェクトの目的は、①大型車対距離課金、大型車走行マネジメントに関する諸外国の最新動向の把握、②大型車対距離課金、大型車走行マネジメントを支える技術開発動向、標準化作業の進展状況の把握、③わが国において課金などによる大型車マネジメントを導入する際の課題の整理をすることであり、これら研究成果を日交研双書「道路課金・交通マネジメント～維持更新時代の戦略的イノベーション～」としてとりまとめ、成山堂書店から出版することができた。

本報告書は日交研双書では十分に解説できなかつた最新の欧州課金政策動向（第 1 章）、双書で分析枠組みを示した損傷者負担を考慮した高速道路化料金に関する実証研究（第 2 章）、欧州委員会が提案する新しい道路課金方針（第 3 章）についてとりまとめたものである。

キーワード：道路課金、インフラ財源調達、対距離課金、利用者・汚染者負担、欧州委員会

Keywords : Road Charging, Infrastructure Financing, Distance-Based Charge, User and Polluter Pay Principles, European Commission